

消防団長紹介



岬町消防団 団長 玉置 真

岬町は大阪府の最南端に位置し、和歌山市と隣接する海・山に囲まれた風光明媚なまちです。大阪市中心部までは電車で約1時間、関西国際空港までは約30分圏内にあります。

岬町では、ビーチスポーツが楽しめる海水浴場やヨットやカヌーの体験などマリンスポーツを楽しめるほか、海釣り公園やサイクリングなどレジャー施設も充実しています。

また、平成29年4月に「第二阪和国道」が全線開通し、同時に国と一体となり開駅した「道の駅みさき・夢灯台」は、大阪湾を一望できる高台に位置し、鮮魚等の特産品の販売等をしており、連日多くの人々で賑わっています。

岬町消防団は昭和30年4月1日に発団、現在は条例定数120人で実員数は101人、団本部（副団長以上）と7つの分団で構成しています。

従来の消火活動に加え、近年の地球温暖化による大型台風の発生や豪雨等での水防活動も期待されており、災害発生時は大きな動員力と即時対応力を生かし、避難を促す広報や土嚢の運搬等を行い、地域住民の生命・財産を守っています。また、町内のイベントや防災訓練等に参加し、消防団啓発活動や初期消火等の指導を通して、地域住民の防災意識の高揚に努めています。

玉置団長は、昭和57年4月1日に入団以降、班長、分団長と務められたのち、平成22年4月に副団長、平成28年4月には団長に就任されました。

火災現場の際には、持ち前の決断力と誠実で責任感の強い性格を活かし、積極的に職務を遂行されてきました。幅広い消防知識と経験を駆使し、部下団員の指導や自身の技術の向上にも努められています。その功績が認められ、平成30年11月には藍綬褒章を受章されました。

また、普段は岬町内で建設業を営まれ、火災現場では見られない明るく人情味厚い性格で、町民や団員からの信頼も厚く、岬町に貢献されています。

玉置団長が特に記憶に残っている出来事として、入団して間もない頃に岬町淡輪で発生した林野火災を挙げていただきました。

本事案は、おりからの強風に煽られ火の粉が飛散し、次々に新たな延焼地点を作り、至るところから火の手が上がり急速に延焼拡大していく大規模火災でした。

消火にあたっては、消防団員が消火活動に着手するも火の手がおさまらず自衛隊を要請し、ヘリコプターからの空中消火を行うなど消火作業は極めて困難な状況のなか、自

身も他の団員と入山、延焼防止の活動に従事し、約一週間にわたる消火活動にあたったことは鮮明に覚えているとのことでした。

玉置団長は、その当時の団長の適格な判断と指示のもと消火活動に従事した経験を今でも忘れずに現在の団員に指導にあたり、これからも消防団一丸となって安全安心な岬町を築いていくと決意を述べていただきました。

近年の頻発する災害を考えますと、ゲリラ豪雨や大型台風の発生があります。消防団の責務は消火活動だけでなく、水防活動も重要視され、今まで以上に地域住民の生命・身体・財産を守っていく必要があります。また、大規模災害では、大きな動員力や対応力が求められていますので、ますます防災意識や消防技術の高揚に努める必要があります。

今後とも、地域住民を守っていくために消防団は一致団結し活動していきます。